

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム どりーむ荘
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	長崎県西彼杵郡長与町平木場郷517-5
記入者名 (管理者)	江下 愛子
記入日	平成 20 年 10 月 29 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↓ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームにて2ヶ月に一度、自治会・役場・利用者家族の方、理事長・ホームのスタッフと事業所の理念、サービス等について会議を行っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	みんなで、一緒に、ゆっくり、楽しくをモットーに日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	上記の理念を玄関入り口に掲げ、ホームに出入りのある方の目に入りやすいよう心がけている。		みんなで、一緒に、ゆっくり、楽しくをモットーにしているが、地域に溶け込むような理念を現在検討中です。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方とは気軽に挨拶し合えるような関係を築けている。また、気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気作りを心がけている。		夏祭りなどの行事ごとにはポスターを作成し、近隣住民やスーパーなどに配布し参加を呼びかけている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会などの行事ごとにはなかなか参加できてはいないが、町内のペーロン大会や花火大会には利用者、スタッフ共に参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>			<p>地域の方々との交流は、まだまだ十分とは言えない。特に地域の高齢者との交流はなく、その方たちがどのような暮らしをしているのかは把握できていない。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>スタッフ全員で自己評価を作成し、話し合っている。作成した自己評価のもと外部評価を実施する意義を勉強し、改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の際、昨年の外部評価の結果をもとに、会議に参加された方々に報告・説明し意見をきくことによってサービスの向上に努めている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町内のケア会議に現在も引き続き参加している。又、運営推進会議を開催することで、交流の機会が増えている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>講習会や研修会に参加し、学ぶ機会を設けている。又、ホーム独自で勉強会を開催し、職員全員で勉強している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法については日頃より勉強会や、会議のときにスタッフ全員で話し合い、防止に努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>理解・納得を得るために説明の際には十分な時間を取り、分かり易く、丁寧に説明するよう心がけている。又、一方的に説明するのではなく、ときに確認を取りながら説明している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からの訴えには常に耳を傾け、意見や不満などを言いやすい関係作りに心がけている。又、意見苦情があれば直ちに職員会議を開き、解決に努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、お便りで個々の報告やホームでの出来事を連絡している。2ヶ月に一度、どりむ新聞を作成し、季節感を感じられるような写真や出来事を掲載している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関入り口の面会簿の横に、意見や苦情を記入する用紙を置いている。意見や苦情があれば直ちに職員会議を行い問題解決に向け話し合っている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度、全体会議を行い、職員からの意見や提案を聞いている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員個々から事前に翌月の勤務希望を聞き、希望に基づいて勤務調整を行っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には一ヶ月前までに退職の意思を聞き、引継ぎ期間を十分に取るようにしている。交代の新人職員には研修を行い、指導を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、勉強会を行う際、勉強会のリーダーを決めている。リーダーになった者はその時々合ったテーマにそって、資料を集め勉強会を行う。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア会議には理事長や管理者が参加し、意見交換を行っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に数回親睦会を行っている。又、職員の個人面談にも対応すると共に、働きやすい環境を提供している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	受験の情報等の提供や、相談があれば常に話を聞くようにしている。勤務状況や日々の努力については、ホームの見回りの際に把握している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に面談を行い、早期対応が出来るように努めている。以前利用していた施設より情報収集し、参考にしてている。		傾聴の姿勢を忘れず、本人のニーズに対応しようとする心がけは大切と思われる。日々、努力を重ねる。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム利用前に、利用者や家族の方と面談を行っている。その際に現在困っていることや不安に思っていることを聞き出すよう働きかけている。不安の除去に努めている。		面談中に話し忘れたことについては、随時、電話などにて対応することを十分伝えておく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があれば、その都度その方の立場や、何を必要としているのかを検討し対応に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを開始する前に安心・納得して頂く為、ホーム見学や十分な説明、意見交換を行っている。		入所後、約一週間位は本人の動きを十分観察し、気付きについては日誌に記入しサービスの方向性を見極めていく必要がある。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人一人とゆっくり話をしている。昔話などから学べることは学び、その話などから喜びや悲しみを共にしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時間などが許す範囲内において、食事介助や見守りなどを職員と共に行う。		月に一度職員からの手紙や、2ヶ月に一度のどリーむ新聞を作成し、ホームでの生活状況や行事ごとを連絡している。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月に一度は面会に来て頂けるようにしている。(利用料をホームでの窓口払いにしている。)各居室で家族団欒の場を設けている。		短時間の外出(外食など)や、お盆・お正月はできる範囲で外出・外泊の協力をお願いしている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や面会があればゆっくりとした時間を過ごして頂けるように支援している		馴染みの人や場所については本人のみの情報だけではなく、家族等にも話を聞き、好んでコミュニケーションが出来るよう職員も情報収集に努めている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	その方の特性を把握し、お互いが立場を認識できるよう、職員は十分な観察・声掛けを心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居時、必要であれば、ご家族に相談に耳を傾けている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にホームでの暮らし方を本人や家族を交え伺っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの家具などの持込や、身の回りの品々を持ってきて頂き、今までの環境に近い暮らしに心がけている。又、これまでのサービス利用については、以前の利用施設や家族から情報収集を行っている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝、バイタルサインチェックを行い、個人記録に記載している。ホーム全体の申し送りも有り、職員全員ケアに入る前に目を通してしている。		申し送りなどに目を通しサインはしているが、ケアに入った後に目を通すこともある。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人に情報収集を行い、見出された課題や問題点などを職員全員で話し合っている。担当スタッフにより介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画で実行している目標が本人様に困難であると思われるときや、本人様より訴えがあった場合には計画の見直しを行うと共に、家族や、必要な関係者と話し合い新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人一人の特徴や変化を具体的に個人記録に記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	すぐには対応困難な場合もあるが、その時の状況に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練時は消防の方と、運営推進会議の時には民生委員や役場職員の方などと交流を持ち、必要な時にはその方たちに協力をお願いするよう行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応可能な医療機関を確保している。		受診表を作成し、医療機関受診の際は相互に情報提供しやすい方法をとっている。又、現状に満足することなく、より一層の内容充実に努めていく。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	一人一人に合わせた医療機関に受診し、医師と相談しながら治療を進めている。		認知症の専門医療機関に受診している訳ではないが、医師と相談しながら、今後の課題として取り組んでいきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の職員もおり、日常の健康管理と共に適切な対応も瞬時に行える様になっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院にいたった際は、主治医・本人への面会を重ねることにより、病状把握に努め、早期退院の可能性を見出している。		日々の変化を的確に見極めることにより、病状把握ができるものと信じ、今後も援助を続けていきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化および、終末期に向けた利用者に対する方針は、利用者の家族・医師との十分な話し合いを行っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者が住みやすい環境作りや、日々より良く生活してもらう為、職員・家族が話し合い、検討している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退居の際、移り住む事のダメージを最小限にするため、本人を含めた家族と十分に話し合っている。また、移り住む先を事前に見学に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報等は保管場所を限定し、勝手に持ち出すことのない様になっている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者一人一人の希望に添えるように話を聞き、又、希望を言いやすいような関係作りに心がけている。</p>	<p>例えば、入浴のための着替えを準備する際、本人の要望を聞きながら着たい洋服を決めている。季節的にどのような服を準備したらいいのかを本人に聞きながら行っている。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の希望にそって支援するよう心がけているが、現実的にはまだ十分とは言えない。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>二ヶ月に一度、美容室の方を招いて散髪を行っている。その際は散髪前に本人と美容室の方と話し合いどのようなヘアースタイルにするのか決めている。</p>	<p>本人、家族の希望があれば馴染みの美容室に出かけられている。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>本人のできる範囲で野菜の皮むきやテーブル拭き、食器拭き、食器類の準備・後片付けなどを職員と共に行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の好みなどは聞いて把握している。</p>	<p>食事作りの際など、利用者の方たちへ何を食べたいかなどを聞きながら献立を立てている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>定時のトイレ誘導や、本人からの訴え時の誘導・見守りを行っている。又、排泄チェック表を確認しながら実行している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週に3日の入浴日があり、入浴を楽しめるように支援している。</p>		<p>本人の希望やタイミングにそえるよう努力はしているが、なかなかその様に出来ないのが現状である。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>気候に応じた換気を行い、衣服や布団などの調整を支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居前に生活歴を聴取し、その方の趣味や以前の職業などから、どのような事に興味を持ち気晴らしになるのかを検討している。</p>		<p>時には気分転換にドライブなどに誘っている。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>事務所で預かり保管している。本人の希望がある時は職員と一緒に買い物などに行き、使えるように支援している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>本人の希望にそえる様に努力している。</p>		<p>中庭でおやつをしたり、季節ごとの行事ごとに参加できるように支援している。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>季節の変化に合わせて、公園や花見に出かけている。</p>		<p>家族の協力のもと、墓参りに出かけたり外食を楽しまれている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは本人の意向に合わせて支援している。		手紙などを書ける方は家族や親類の方に送れるよう支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人の居室で過ごして頂き、特に時間制限することなくゆっくりと過ごせるようお茶を出しつづいでもらうよう心がけている。		気候のよいときは家族や知人の方と中庭でお茶を飲んでもらい、ゆっくりとした時間を過ごしてもらう。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の行動にまかせて、全くそのような事は行っていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在はそのような行為をする方はいない。今後、入居されたとしても見守りを密にすることにより、鍵をかけることはない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は主にリビングで過ごされているが、居室に戻った際は随時、訪室し観察を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は事務所のストックケースに個人別に保管されている。洗剤は洗面台の下に保管し施錠している。包丁は流し台の下のドアポケットにしまっている。薬品がある所にも施錠している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員が薬の本人に手渡す前に、もう一人の職員に確認を行ってから渡すようにしている。火災防止のため避難訓練を年に二回行い、職員全員で学んでいる。		事故防止のため一人一人の状態に応じた対応で、目配りをしっかりとしながら予防に取り組み話し合う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時の判断・対応法を記載したものが目につく所に貼られてある。又、介護者のための応急処置マニュアルの準備もされている。		予防、知識の基本マニュアルを備え、職員全員が理解できるようにプリントやビデオなどで勉強し、話し合いを行っている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を行っている。(うち1回は消防の方を招いて)近隣の方には書面にて協力体制を得ている。又、防災グッズについては現在、資料を集め準備中である。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	本人の行動レベルを家族へも理解を示し、変化のたびに報告を行っている。面会の時には特に本人とゆっくり過ごして頂き現状を共有している。		口頭だけによる指示にかたよることなく、本人の状況を十分理解したうえで見守り・援助も合わせて行っていく様努める。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	本人よりの訴え、職員間での気づきについては、個人記録に記載し、情報の共有に努めている。		日々の業務に流され、記録漏れも時々見られることがある。又、個人記録への目通しが十分行われていないこともある為、それぞれの時間にゆとりを持ち業務にあたる。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成し理解に努めている。服薬による症状の変化については医療機関への相談等を受けている。		新薬使用開始等の際は本人の理解度に合わせて説明を行い、変化の確認に努めている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の献立の中で、食物繊維の豊富な食材等を十分活用している。又、水分確保、歩行による腸蠕動活発かも促している。		同一食材摂取においても個人差がある為、排泄状況を勘案しながら、細かい援助に努めていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	各個人のレベルに合わせ、支援をしている。歯科医との連携をもちながら、専門的指導も受け、予防的に取り組んでいる。		口腔内清潔の必要性等をこまめに説明し、毎食後の清潔維持の支援に努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食ごとにチェックし、食欲の変化、体調変化の指標としている。水分量についても本人用のコップによる引水程度を把握している。		利用者によっては排泄回数の頻度を考えすぎて飲水を控える方も見受けられる。水分摂取の必要性等を説明し、理解をもとめている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	頻発の時期、症状出現時は定期的に勉強会の議題の中で、周知徹底をはかっている。		職員各人の意識向上。マニュアルを作成している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器等は適宜、消毒液による浸漬を行い衛生管理を行っている。定例会の中においても衛生に対する意識の確認を行っている。		調理器具等の消毒頻度を明確に行い、一層の衛生管理に努めていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近隣の方とは違和感なく過ごしている。		夏祭り等の行事ごとに参加を呼びかけている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然な光が入り、窓からは山なども見える為、四季折々、楽しめる様になっている。又、室内は家庭的な調度品を使用しているため、入居者も安心して過ごされている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファを置いてあるので、利用者同士で会話を楽しまれる空間作りに心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の家具等は以前使用されていた馴染みの物を使用するようにしている。そのことにより、居心地よく過ごしていただくよう心がけている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	汚物は新聞紙に包み外にポリバケツを置いている。そこに捨てることにより、汚物臭の軽減に努めている。換気はこまめに行い時々入居者に確認を取りながら温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがあり、居室ベッドにも手すりを設置している。入居者の身体機能に応じて、台所のお手伝いや軽作業を行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来る事は本人にしてもらい、出来ない事は職員が声掛けをし、援助しながら行っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭では食事やおやつをしたり、外気欲を楽しんでいる。又、手すりがあるので歩行練習を行っている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方々、及び家族の方々を含め、スタッフ共々楽しく、笑顔で毎日をご過ごしていけるよう取り組んでいます。